

どこも同じか・・・

先日、他県の看護学校で高校卒業後の学生を教えている教員と話す機会があった。

看護師は、小さな子どもからお年寄りまでの広い年齢層で、病気やケガなどハンディーンを持つ方々とのコミュニケーションが求められる仕事である。

看護師に比べると対象年齢には限定があるものの、我々教員も看護師と似たコミュニケーションの質が求められると思う。

さて、その先生は次の2点について悩みを打ち明けた。

1つめは、「学生に『考えなさい』と求めても、何を考えたらいいいのかわかりません。」と答えてくることがあること、2つめは、単位の換算、比やパーセントの計算がわからないこと、である。

少し具体を加える。

1つめについて。

患者さんのケアのために、「お年寄りは今どんな気持ちか考えてみなさい。」と指示すると、学生は、「お年寄りになったことがないからわかりません。」「人の気持ちを考えることはわからない。」とストレートに返ってくることもあるという。

2つめについて。

医療の現場では、量が重要になる。薬品を何 cm^3 、何 mL 、酸素何 L ・・・。医師からの指示された単位と薬品容器の標記単位が異なっていたり、換算が日常かつスピーディーに行われている。

間違えたら×(バツ)がつくだけでなく、患者さんの命に関わることもあるのだ。

話を聞いていた私は、小中のつながりで起こっていることが、基本的な知識を持っているはずの看護学校学生にも起こっていることに問題の根深さを感じた。

看護学校の先生は、小中高の学校現場の責任にはふれず、何とかしなければいけないと対策を練っていたが、聞いていた私には、義務教育教員の取組の成果が大きな影響を及ぼしていることに対する責任の大きさと、さらなる努力が必要であることを改めて思った。

今年度が始まった。

現場の先生と授業を考える一瞬一瞬、現場の先生が児童生徒と接する一瞬一瞬を大切にしていきたいと思う。